

朝山 真哉 氏 学位審査結果の要旨

主査：谷川 昇

副査：中村 加枝、木下 利彦

本研究はパーキンソン病の診断において、レボドパチャレンジテストと MIBG 心筋シンチグラフィーとを同一症例で直接比較した初めての臨床研究であり、レボドパチャレンジテストの高い感度と特異度が証明された。特別な設備や手法が不要なレボドパチャレンジテストは施設を選ばず施行可能であり、パーキンソン病の早期診断および治療に寄与し得るものであることが判明した。このことは神経変性疾患の臨床医療に新たな知見を加えるものであり、博士（医学）の学位に値するものと認められた。